

1. 見学実習

1) 目標

- (1) 高齢者施設の概要と利用者の様子がわかる。
- (2) 介護福祉士としての専門知識・技術の必要性を理解する。

2) 見学方法

- (1) 施設を訪問し、オリエンテーションを受ける。
- (2) 施設内見学
- (3) 利用者とコミュニケーションをとる。
実際に施設の利用者とコミュニケーションをとる時間を設ける。

3) 見学時の留意点

- (1) 施設職員の指示に従う。
- (2) 私語は避け、学ぶ姿勢で臨むこと。
- (3) 華美な服装や遊びに行くような服装は避けること。スカートを避け、動きやすい服装。清潔なものを着用し、ピアス、ネックレス、ブローチ、ブレスレット、指輪などは、利用者を傷つける可能性があるため厳禁。長髪の方はきちんとまとめること。

4) 見学後の課題

タイトル：「見学実習で学んだことおよび感想」のレポート提出

2. 基礎実習 I

1) 目標

- (1) さまざまな障害のため、施設で暮らしている利用者と、通所施設を利用している利用者の、日々の様子を理解する。
- (2) 利用者の日常生活援助がどのように行われているのかを知り、介護活動に部分的に参加する。
- (3) 実習期間内にできるだけ利用者と接する機会を持つ。
- (4) 入所施設および通所施設における介護活動の実際を知る。

2) 実習方法

- (1) 入所施設および通所施設において、それぞれ1週間の実習を行う。
- (2) オリエンテーションを受ける。

オリエンテーションの内容

<例>

- ・施設長、実習指導者、オリエンテーション担当者名
- ・施設の沿革、経営方針
- ・施設設備（建物の構造、地理的条件、居室構成等）
- ・職員構成（職種、職員数、勤務時間等）
- ・職員への紹介
- ・利用者について（入所定員、利用者数、年齢、性別、介護の程度(ADL)）
- ・日課、週間予定、年間の行事等の計画 等

- (3) 対象としては、比較的コミュニケーションをとりやすく、要介護度の低い利用者とする。
- (4) 生活支援技術の実習は、施設の実習指導者（以下、指導者とする）の指導のもとに実践する。学習していないものについては、見学実習を主とする。
- (5) カンファレンス、反省会を行い各自の学びを共有する。
- (6) 可能であれば、医療的ケア（吸引、経管栄養法による援助）の見学を行う。

3) 既習の生活支援技術

コミュニケーション技術（点字）	観察・記録・報告
環境整備（シーツ交換）	食事の介護
排泄の介護（便・尿器の介助、ポータブルトイレ介助、おむつ交換）	
移動・移送の介護（車いす移送、視覚障害者の誘導、杖歩行）	

4) 記録

- (1) 表紙
- (2) 出席表
- (3) 実習に臨んでの課題・抱負 : 学生配置表を参照し、実習前に記入し担当教員に
- (4) 実習施設の概要 印をもらう（以下同じとする）
- (5) 実習日誌（毎日の記録）
- (6) プロセスレコード
- (7) 生活支援技術経験表
- (8) 実習のまとめ

3. 基礎実習Ⅱ

1) 目標

- (1) 利用者の多様な生活や障害を理解できる。
- (2) 障害特性に応じたコミュニケーションを考えながら、利用者と接することができる。

2) 実習方法

- (1) オリエンテーションを受ける。
オリエンテーションの内容については、基礎実習Ⅰと同様
- (2) 対象としては、比較的コミュニケーションをとりやすい利用者とする。
- (3) 施設の実習指導者の指導のもとに利用者に関わり、技術の実践を行う。
学習していないものについては、見学実習を主とする。
- (4) カンファレンス、反省会を行い各自の学びを共有する。
- (5) 可能であれば、医療的ケア（吸引、経管栄養法による援助）の見学を行う。

3) 既習の生活支援技術

コミュニケーション技術（点字、手話）	観察・記録・報告
環境整備（シーツ交換）	食事の介護
身じたくの介護（衣服着脱の介助、口腔ケア）	
清潔保持の介護（入浴介助、清拭、部分浴、洗髪）	
排泄の介護（便・尿器の介助、ポータブルトイレ介助、おむつ交換）	
移動・移送の介護（車いす移送、視覚障害者の誘導、杖歩行）	睡眠の介護

4) 記録

- (1) 表紙
- (2) 出席表
- (3) 実習に臨んでの課題・抱負
- (4) 実習施設の概要
- (5) 実習日誌（毎日の記録）
- (6) プロセスレコード
- (7) 実習のまとめ

4. 施設介護実習 I

1) 目標

- (1) 利用者の施設利用に至る経緯を把握し、現在の生活状況を理解する。
- (2) 必要な援助とは何かを考え、生活支援技術を実践する。
- (3) 地域における老人福祉施設等の役割と機能を理解する。
- (4) 利用者の人格とプライバシーを尊重した態度を身につける。
- (5) 自分の介護の課題を見つける。

2) 実習方法

- (1) オリエンテーションを受ける。
基礎実習の内容に加えて、利用者の施設利用の理由、精神的・身体的な状況と現在の生活の状況等。
- (2) 一人の利用者の情報収集を行う。
- (3) 指導者の指導のもとに生活支援技術を実践する。
- (4) 原則として夜間実習は行わない。
- (5) カンファレンス、反省会等を通じ、自分の介護を振り返る。
- (6) 可能であれば、医療的ケア（吸引、経管栄養法による援助）の見学を行う。

3) 既習の生活支援技術

コミュニケーション技術（点字、手話）	観察・記録・報告
環境整備（シーツ交換）	食事の介護
身じたくの介護（衣服着脱の介助、口腔ケア）	
清潔保持の介護（入浴介助、清拭、部分浴、洗髪）	
排泄の介護（便・尿器の介助、ポータブルトイレ介助、おむつ交換）	
移動・移送の介護（車いす移送、視覚障害者の誘導、杖歩行）	睡眠の介護

4) 記録

- (1) 表紙
- (2) 出席表
- (3) 実習に臨んでの課題・抱負
- (4) 実習施設の概要
- (5) 実習日誌（毎日の記録）
- (6) 利用者記録
- (7) プロセスレコード
- (8) 生活支援技術経験表
- (9) 実習のまとめ

5. 施設介護実習Ⅱ（2年生）

1) 目標

- (1) 利用者への日常生活援助を総合的に理解する。
- (2) 利用者の介護計画を立案・実施・評価する。
- (3) 介護の関連部門との連携のあり方を学び、チームの一員として協力できる態度を養う。
- (4) 福祉用具の知識と活用を、体験を通して学ぶ。
- (5) 自分の介護観の確立を目指す。

2) 実習方法

- (1) オリエンテーションを受ける。
- (2) 指導者の助言をもとに利用者の介護過程を展開する。
- (3) 可能であれば、以下の内容を行う。
 - ・ケアプラン作成過程の見学
 - ・医療的ケア（吸引、経管栄養法による援助）の見学
 - ・夜間実習
- (4) 経験していない生活支援技術については積極的に経験する。これらは、指導者の指導のもとに実践する。
- (5) 「介護とは何か」を考えながら実習する。

3) 既習の生活支援技術

コミュニケーション技術	移動・移送の介護
観察・記録・報告	身じたくの介護
環境整備	清潔保持の介護
食事の介護	睡眠の介護
排泄の介護	

4) 記録

- (1) 表紙
- (2) 出席表
- (3) 実習に臨んでの課題・抱負
- (4) 実習施設の概要
- (5) 実習日誌（毎日の記録）
- (6) 介護過程用紙
- (7) 生活支援技術経験表
- (8) 実習のまとめ

6. 居宅介護実習（Ⅰ：訪問入浴、Ⅱ：訪問介護、Ⅲ：認知症対応型共同生活介護）

1) 目標

- (1) 多様な施設・事業所の役割を理解できる。
- (2) 障害がある利用者の居宅での生活と、介護の場の違いによる生活支援のあり方を学ぶ。
- (3) 介護実践に必要な情報を、収集することができる。

2) 実習方法

●1年生

居宅介護実習Ⅰ（訪問入浴実習）

- ①オリエンテーションを受ける。
- ②居宅介護事業所の訪問入浴担当職員に同行する。

●2年生

(1) 居宅介護実習Ⅱ（訪問介護実習）

- ①オリエンテーションを受ける。
- ②居宅介護事業所の訪問介護員に同行する。

(2) 居宅介護実習Ⅲ（認知症対応型共同生活介護実習）

- ①オリエンテーションを受ける。
(施設の沿革、運営方針、職員構成、利用者等について)
- ②指導者の指示のもとに実習を行う。

※可能であれば、医療的ケア（吸引、経管栄養法による援助）の見学を行う。

3) 記録

- (1) 出席表
- (2) 実習日誌